生きる目的

総ての人に住む家があり、着る服があり、食べ物があり、安全で安心して、楽しく快適に暮らせること。

「生きる目的」とはこんなに簡単なことです。

地球環境の現況

ところが現在「生きる目的」に反し、言葉では言い尽くせないような状況であることは、既に周知の事と思います。

歴史を振り返る

有史以来の歴史経験から判ったこと

- 周期的な歴史の中でただ単に、略奪、革命、戦争、殺戮、破壊を繰り返している。（東西文明の周期的交代）
- 宗教観の違いにより、論争が起き戦争になる。
- 衣食住に事欠くと必ず略奪や戦争が起きる。
- 妬み、不幸、悲しみ、恨みを持つ人がいたり、持ち物の格差・貧富・待遇などに差があると争いになる。
- 地球環境を破壊すると人体も破壊される。
- 地球環境を破壊すると精神面も破壊される。
- 法律・規則・憲法は必ずしも全員が守れない。

■　基本的に自由でいたいが、夢や希望のかなう環境が整った事が無い。（何らかの支配や、規制に縛られてきた）

■　競い合うことにより、文明が進化発展する。

■　一人だけでは生きられない。

■　考え方は利己的でやりたい事をやる。

まとめれば反復の歴史であり、物質的には進歩しても、精神的には何ら変わらない。いうならば一度も「生きる目的」は達成されていないことになります。

解決できない問題

問題が問題を生み無限に問題が生まれています。しかし今のところ具体的な問題の解決法は、何一つありません。解決法が無い原因は、「問題は何（何が問題なのか）」が解らないことにあります。

学問・教育・研究・医学・宗教などが、進めば進むほど世の中は荒み病人は増え、戦争は起こり乱れていっています。また社会情勢や治安、地球環境や生活環境にしても然りで、悪化の一途をたどっています。

何故なのでしょう？本来は、このようにならないためにあるのが学問や教育や研究、また医学や宗教です。

皆が善悪の判断が出来るにもかかわらず、「判っていても、止められない」という精神構造を脱却できません。

これらの問題を解くための究極の「問題は何」でしょう？

根本原因

既に周知の事と思いますが「問題は何」の「問題」は、「人間とは何」「自我とは何」「生命とは何」であり、これらの問いに答えが無いことにあります。（総ての問題の原点は、三つの問に集約される。）

これらの三つのキーワードを日本の高等学校の教科書や、ブリタニカ国際百科事典などで調べてみると、「有史以来の永遠の問いであり、数千年前と同様にいまだ謎」または、「統一された見解の存在は無い」と書かれています。

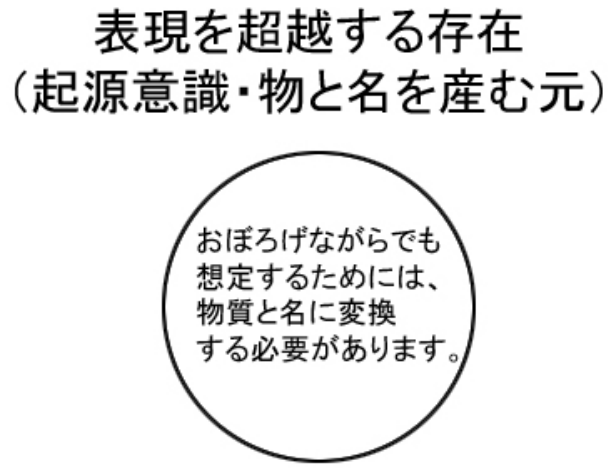
つまりわたしたちは「自分が誰なのか」を知らないのです。だから「どこから来て」、「どう生きたらよいのか」、「何のために生きているのか」、「最後はどうすれば良いのか」が分らないのです。

「自分は誰？」の答え

これらの答えは、皆さんが徐々に気付いておられるように、「宇宙を創造したメンバーの内の一人」です。これを「起源意識の一

部」と呼びます。「起源意識」は、物（有形・無形を問わない物質）と名（言葉・文字・数字・記号・手話・名前）を生み出す元で、「総ての人の意識（心）」の「集合体（融合状態）」で出来ています。（一人では生きられない論拠。）

※起源意識：Consciousness of Ultimate Origin



宇宙に存在する物は、総て数的な法則性と数によってできています。
つまり偶然やでたらめにできたのではありません。
数の介在と数的法則性があることより、「誰か」が何らかの意図を持って創ったことを、うかがい知ることが出来ます。
つまり「誰か」とは、創造する意図であり、何らかの存在があると考えられます。
一切を生み出す元となる機能、これを「起源意識」と呼びます。

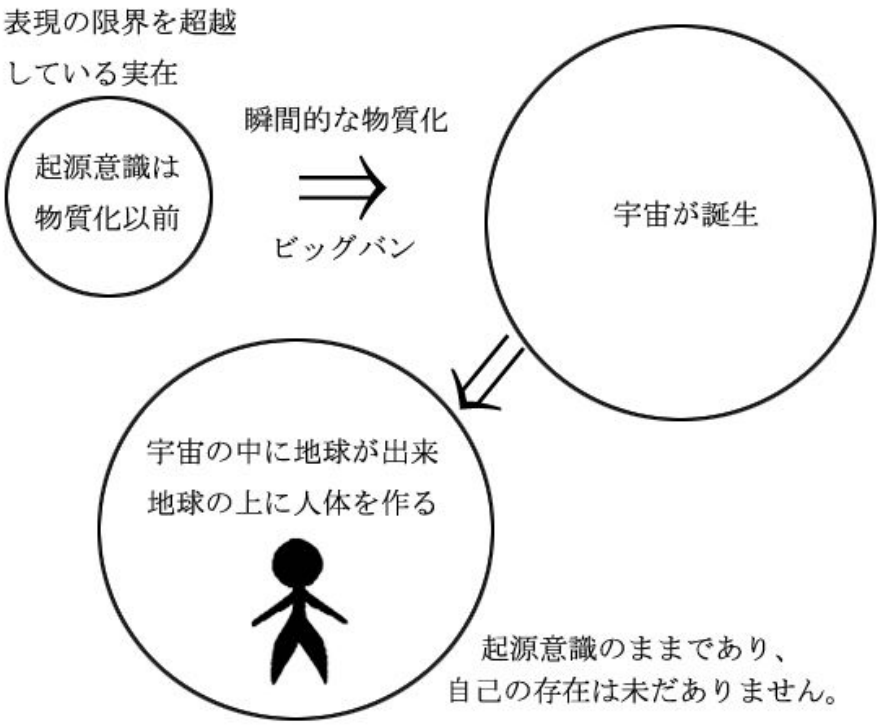
「起源意識」は、「物」と「名」を産み出す側なので「物」でも「名」でもありません。つまり表現と認識の限界を、超越しているため表しようがないのです。しかし、この表現と認識を超越する「起源意識」から、宇宙を初め万物が生まれ、現在もなお続いています。

わたしたちは表現できない存在

総てが「起源意識」より産まれるため、宇宙や物質の起源を学問や知識として捉えることは出来ません。なぜならば学問は、「物」と「名」を用いなくてはならず、万物の起源は「物」と「名」の以前にあるからです。(知るに知れない・知る術がない)

ですから学問をもって総てを知ることは不可能なのです。(逆に肝心要を知らないことは、何も知らないに等しいことになります。)

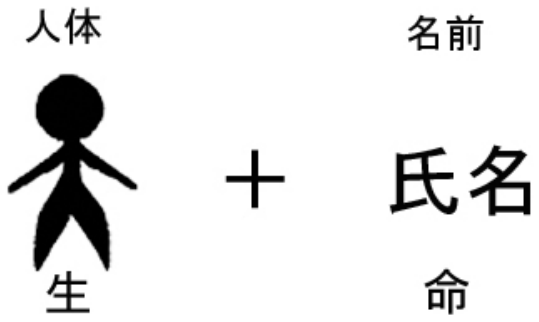
ではここからは、「起源意識」について考えてみましょう。



「起源意識」は、宇宙を産み出した後、地球上に「人体（物質」を創造し、「人体」と「名前（個人名)」の数だけ分裂していきまし

た。従って「起源意識」は現在、わたしたちの中において、「個人意識（心・ハート・マインド・命）」に変化して存在しています。

命名によって、「起源意識（命）」の一部が人体の中に入ります。



人体に名前を付けることを命名といいます。
これによって人体に命（いのち）が名前に置き換えられます。
唯一人体に入った命だけが発言することが出来、これが万物の霊長である所以です。
表現を超越する起源意識は、命を名前に置き換え生体に入ることで、生命体としての自分という存在になります。
「起源意識」を「霊」とすれば、その一部が遊離して人体に宿り、これを「分御霊」と呼んでいます。

「起源意識」の状態の時は、物質（人体）も名前（個人名）もなく、全体一体で機能していたので、不可能なことは何もありませんでした。人の脳に関していえば、100 パーセント機能することです。（分散後の現在は、最大でも 7 パーセント程度しか使えていません。）

「起源意識」は、「音波（周波数と振動数）」を「声」に変え、「人体」に寝言を言わせ、「個人名」を耳で捉えさせ、「自己」となって脳に定着します。

もしも「起源意識」またはその「代行者（自分にとっては親など）」

によって、「名前（個人名）」を「呼ばれる事（命名された名前を呼ぶ事）」が無く、脳に定着できないと「人体」は、動物と同様かまたは死んでしまいます。（人体は起源意識の乗り物）

こうして命名により分散して脳に入った「起源意識（コア）」、すなわち分裂した個々の「自分」は、名前を繰り返し呼ばれるうちに「自己（セルフ）」を形成します。

「自己」は「人体の使用者」であると共に、「管理者」でもあります。ですから使い方や、管理が悪いと「人体」はトラブル（病気）を起こします。

1973年スリランカのジャングルで発見された「野生児」で、猿に育てられたため話すことも二足歩行も出来ない。少年は10歳くらいとみられる。
1799年フランスのアベロンのビクトル。
1920年のインドのミドナプールのアマラとカマラ。
1970年アメリカのジェニーなどのケースが挙げられる。

狼や猿に育てられると人にはなれません。

人体に命名し、言葉などを用いて、語り掛けをする環境が無いと、自己の形成ができません。

13世紀のイタリアでは、フレデリック2世による奇妙な実験が行われました。

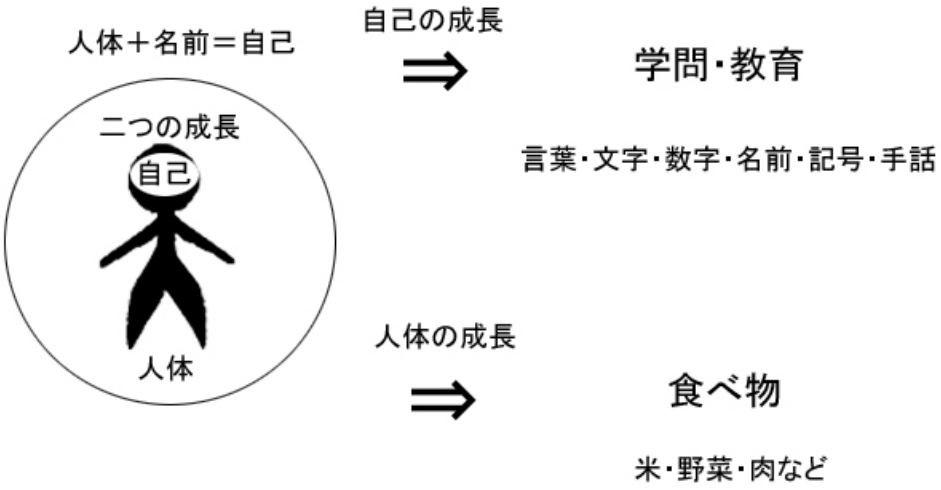
生まれたばかりの赤ちゃんを、お城に連れてきて、食べ物や成長に必要な環境は十分に与えたのですが、唯一他と違ったことがありました。

それは、一切声を掛けたり、話掛けなかったのです。
可哀相なことに、赤ちゃんは全員死んでしまったのです。

管理者がいない状態の人体は、生き続けることができないのです。

個々の「人体」の中に入った「起源意識の一部（自分）」は、「人

体の成長」と「自己の成長」の二つの成長を行います。（日本語では自らの事を、自分と言います。自分とは自らを分けると書き、起源意識が分れた事に気付かされます。）

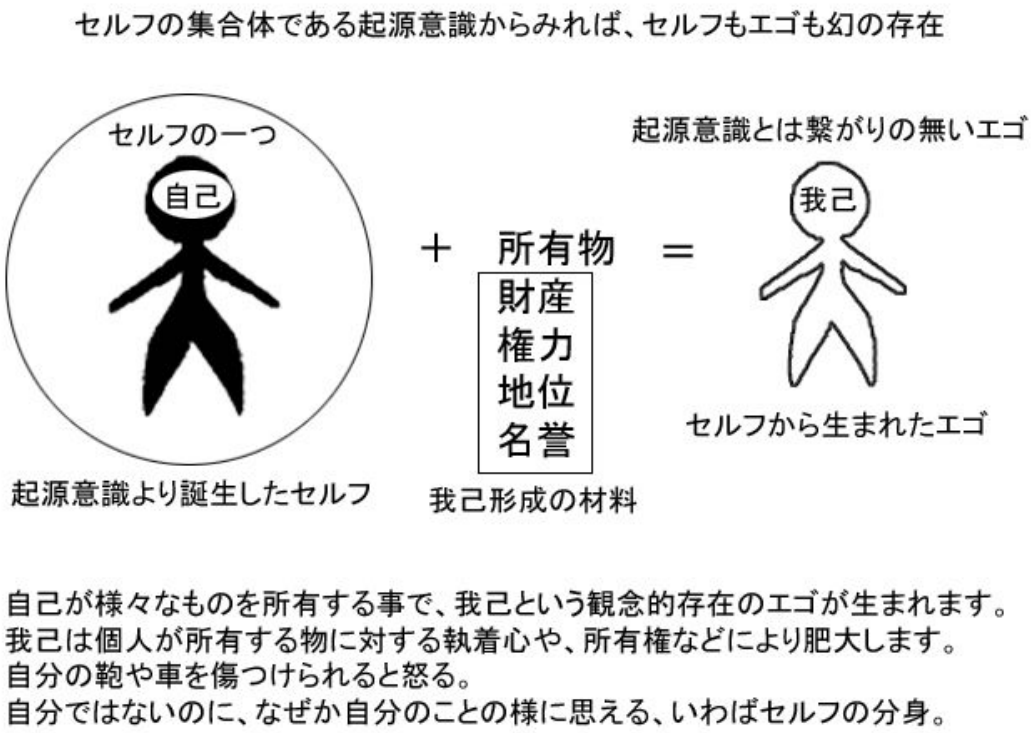


成長には二つあり一つは身体、もう一つは自己です。

「人体」の栄養は食べ物です。例えば肉・野菜・果物が必要になります。一方「自己」の栄養は「名」です。「名」とは「名前・言葉・文字・数字・記号・手話」などです。このように人格形成は、「人体」と「自己」の成長を通して完成されていきます。

この成長過程で「自己」に「持ち物（所有物）」が与えられます。例えば「自分の靴」、「自分の鞄」、「自分のペン」など様々な「物」が与えられます。

こうした生活環境で、「自己」が「持ち物」を所有する経験を積み重ねるうちに、「我己（エゴ）」という観念が生まれます。これは「もう一人の自分」という存在を形成します。（ジキルとハイド博士の関係が成立）

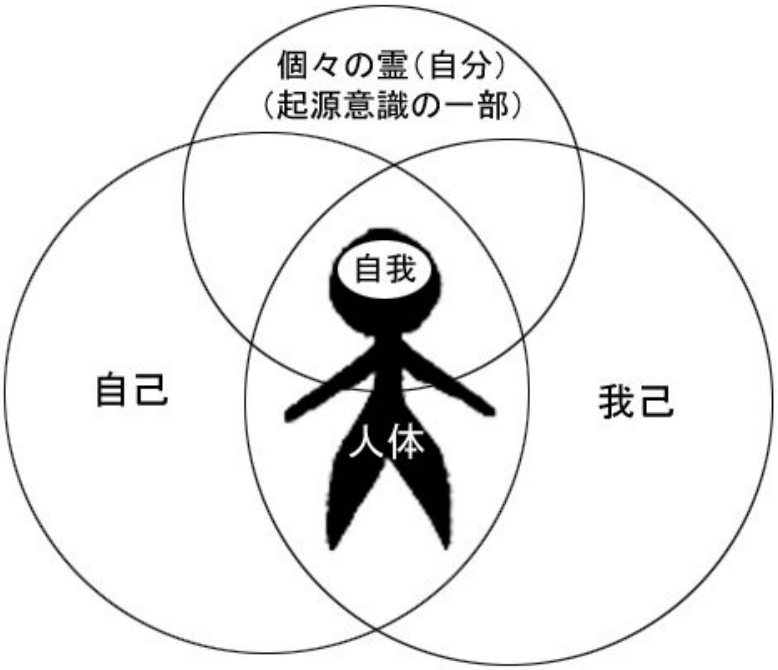


「我己（エゴ）」を形成する材料は、「自己（セルフ）」の所有物です。例えばお金や土地や車などの有形な物と、権力や社会的地位や名誉などの無形なものと様々です。

こうして「自己」と「我己」の二つが合さり、「自我」が形成されます。それを「自分」と思い込む事から、あらゆる悲惨な出来事が起き続けます。（コアの一部が、自我＝自分になってしまいます。）

本当の「自分」は「起源意識（コア）」の「分身（分御霊（わけみたま））」です。

下の図の最上部の霊が「起源意識の一部（分御霊）」にもかかわらず頭の中で形成された「自我」という幻（まぼろし）を、本物の「自分」と取り違えているのです。（これに気付かない限り、謎は迷宮入りです。）



人体と自己と我己と起源意識（霊）の一部の四つが合わさって、いわゆる自分が存在します。

さてその後、「自我（セルフエゴ）」の構成要素である「我己（エゴ）」だけはやたらと肥大化を続けます。

「自己（セルフ）」は「起源意識の一部」が単純に名前となり、「起源意識の代行者の一人」として発言権を持ちます。（これを世間では人性と呼びます。「人」とは万物を創造した究極の実体の通称です。）

一方「我己」は、「自己」が「自我」となる過程において、「自己」

の所有物（有形無形）に対する「執着心」から、「自己の分身」を生み出したものであることは前述の通りです。

一般生活においては、「起源意識（全知全能）の一部」である「自己」が判断をしています。ですからこれを「自己判断」といいます。

一方「我己」は、「起源意識」とは繋がっていません。そのため「所有物や所有権に対する執着心」のみが判断基準となり、時として「自己」の常識ある判断を簡単に逸脱してしまいます。

現代社会には「自己」の所有するモノが溢れ、まさに判断の殆ど全てが、「自己」より「我己」に移行し、「我己」による判断を行っています。「自己判断」に対してこれを「我己判断」といいます。

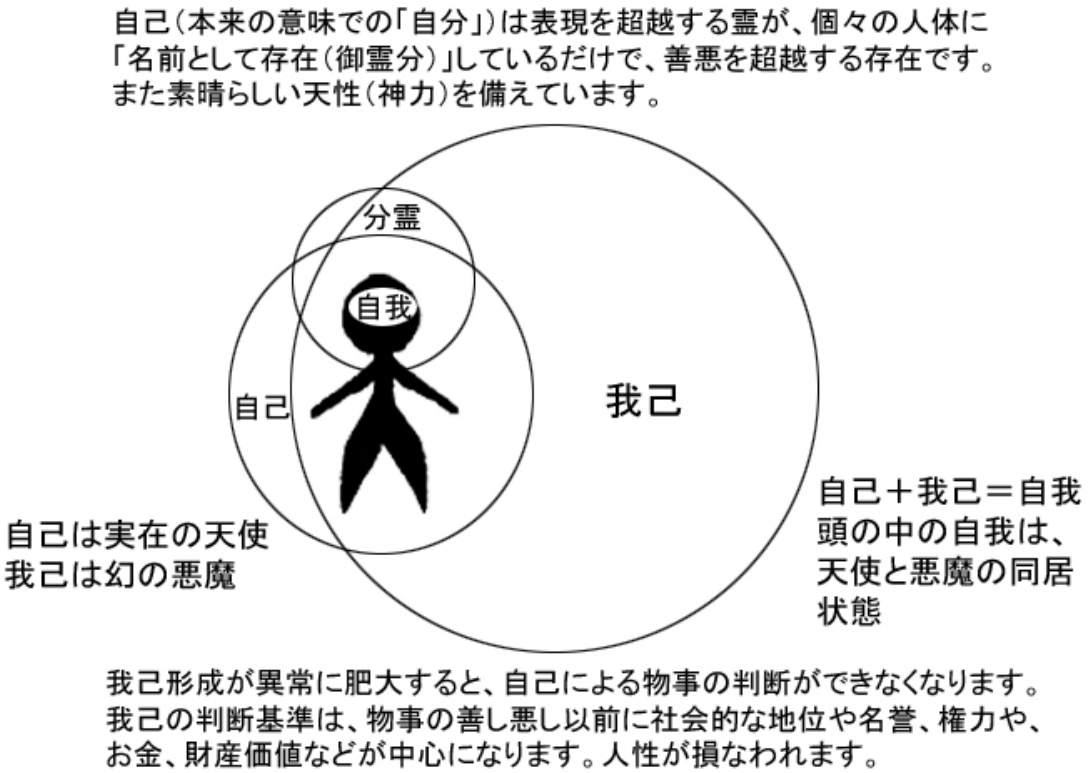
ですから自分自身ではない車や家を傷つけられても、「自己」ではないもう一人の自分、「我己」が判断し、激怒して殺人事件にまで発展してしまうのです。(一過性に「自己」の自制心が機能しなくなる)

いったん、「我己」が形成されると、「我己」の肥大化は果てしなく、「肉体の死」まで貪欲さを失うことがありません。

これにより現在、「お金をどれぐらい持っている」とか、「どのような家に住んでいる」とか、「どんな車に乗っている」とか、「職業は何」とか、「社会的地位が何」とかに興味が湧き、またこれらのこ

とが重視されるため、子供や家族、恋人や友人よりも時として勝り、本来の大切なものを犠牲にしてまで、手に入れようとするまでになりました。（幼少の頃から行われる受験戦争は、まさに究極の我己形成をすることになり、自制心の働きにくい子供になる。）

これら全ては、まさしく「我己」形成のなせる業です。（我己判断が中心となり、悲惨事が耐えないのはそのためです。）



我己による判断は、社会的地位、名誉、権力や所有財産を中心に下されているために、戦争や犯罪や法律違反などの善し悪しの判断がついても、罪を犯させられてしまいます。（自制心が機能しなくなる・自己判断の消失が起きる。）

この現象を「我己社会化」と呼び、「我己」が社会構造にまで影響を与え始めた事により、「文明や富を独り占めした者が強く、賢く、偉い」というような、いわゆるエリートやエグゼクティブやセレブと呼ばれるために、生きていかなくてはならないような、錯覚の「我己社会構造」にまで「我己」は発達してしまったのです。

本来わたしたちは、「自己」（起源意識）で繋がっているはずが、「我己」により繋がった全体一体の構造になっているのです。

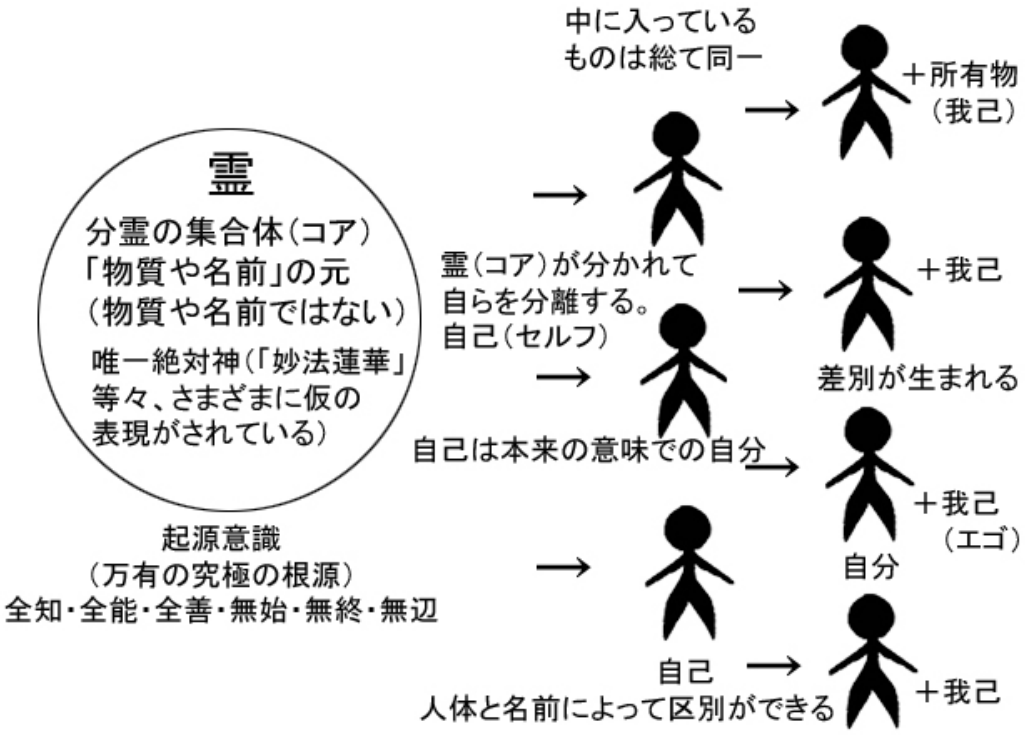
「起源意識」は全知全能ですが、「我己」は我欲のみです。そのため世の中は乱れ我欲で満ち溢れています。（悪魔社会になった）

「我己」は競争心を煽(あお)り、文明を急速に発達させる機能があった為、重要な役目を担っていた時代がありました。しかし現在、文明は偏(かたよ)った特定地域（例えば日本、英、米国、フランス、ドイツなど）で過剰発達し、人々は戸惑い、喧嘩や犯罪が急増し、死者（日本の年間自殺者数は 3 万人を超えている）まで出るようになった事からも、現在は「我己」が過剰に発達、肥大しすぎたと言えます。

今後は、文明をどこまで発展させ、完成させるのかを考え、全人類が「生きる目的」を達成できるように、文明を有効活用する時期に入ったということです。

すなわち単に文明を発達させるのではなく、皆が幸せで快適に暮らせるための文明のスタンダードを文明国で決定し、これを総ての国の総ての人に提供し、共有する時期に入ったという事です。

ではここでもう一度、「起源意識（万有の究極の根源）」から「いわゆる自分」になるまでの流れを図で見てみましょう。

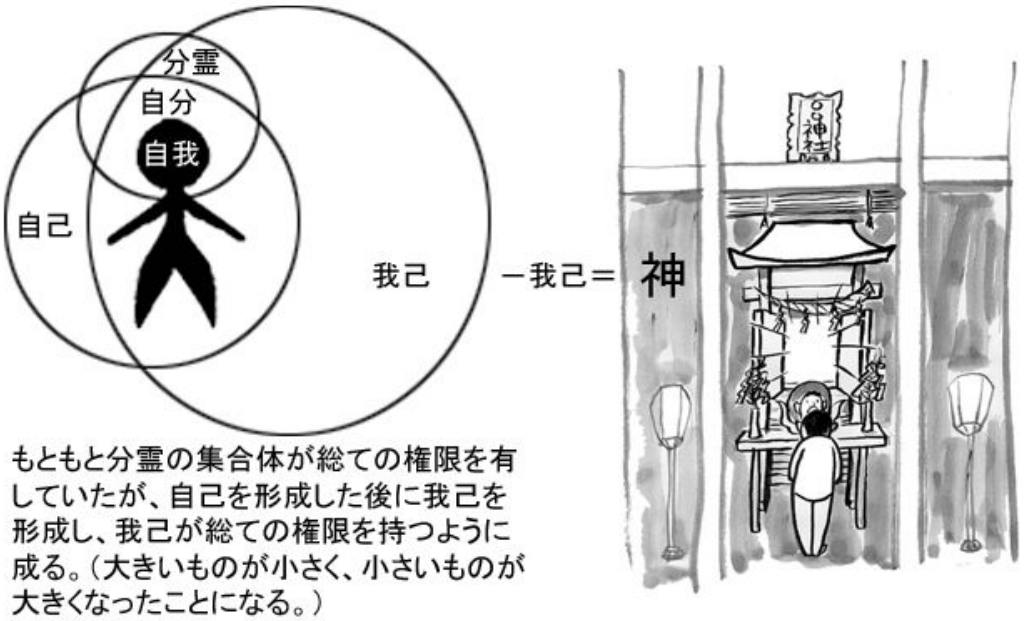


図のように自分を中心にして見れば自分はいます。しかし、「起源意識」から見れば総てが自分（「起源意識」の分御霊」ということになります。（自己の存在は権（かり）・平等の論拠）

わたしたちは、大人になって自分を表現する時に、名前「例、た

ろう・はなこ」を使いません。例えば「これはたろうの本です」とは言いません。皆が「私（わたくし）・I（アイ）など 1 人称」を用いて表現しています。「これは私の本（My book）です」というはずです。

これには総ての人々が同じである事に、必ず気付くようにプログラムした「起源意識」の意図が窺えます。（瀬戸内海は大三島大山祇神社に「わたし・和多志（多くの志の和した者）」が神の名前である事が書かれています。それが「我己」により「私」に曲解された。）



もともと分霊の集合体が総ての権限を有していたが、自己を形成した後に我己を形成し、我己が総ての権限を持つように成る。（大きいものが小さく、小さいものが大きくなったことになる。）
この状況は伊勢の伊雑の宮、伊勢神宮外宮、内宮の歴史と今日のあり方に一致する。京都賀茂神社の三社も同様である。（神社の力と大きさで霊の推移を表現）

神社を権現と呼び、中身は空。
鏡に映るのは人体と自分
カガミーガ＝カミ（神）
自我－我己＝霊（コア）

つまりわたしたち一人ひとりの存在は、起源意識のアンテナショップ（分身）であり、一人ひとりにどのように生きたら良いのかを、体験し学び考えさせ、そのデーターを蓄積していることになります。

この蓄積データーが基となり、物質的な変化が常に起きています。

わたしたちが起源意識である証拠

今日、科学は進歩し量子力学という学問を学ぶことができるようになりました。

量子力学で解ってくる事は、わたしたちの意識によって物質が変化することと、わたしたちの想いが物質化（具現化・現実化）していることです。

以下に代表的な項目を挙げてみましょう。

「遅延選択実験」（ジョン・ホイラー）、「量子脳理論」（ロジャー・ペンローズ）、「脳の事前準備ポテンシャル」（ジョン・エクルズ、カール・ホッパー）、「水は答えを知っている」（江本勝）などです。

これらの実験から、人体の中に物（素粒子）に影響を与えたり、創造したりする「起源意識」の一部である「分御霊」の存在を考えざるを得ません。

また「自分」と「人体」が別の存在である事を、裏付ける証拠もあります。これも代表的例を挙げておきます。

「臨死体験」（カール・ベッカー）、「前世記憶」（イアン・スティーブンソン、キャロル・ボールマン、平田篤胤）、「多重人格」、「臓

器移植による記憶の伝播」などがあります。

なかでも科学的な実験として興味深いものとして、「“魂”の重量」平成 5 年設立通商産業省工業技術院・生命工学工業技術研究所人間環境システム設計研究室長　福井幸男博士による実験記事が、月刊ボーダーランド 1997 年 2 月号（角川春樹事務所）に掲載されたことです。

この実験で興味深いことは、生きていたラットが死ぬと体重変化が起こり、7μg から最大で 100μg の体重減少が観られたことです。

実験から解る事は、「生体（生）」と「霊（命）」（分散した起源意識の一個）があり、「生」と「命」が相まって生命体として生きているという事です。（「生」と「命」を分ける紀平正美の論拠。）

霊魂に重量があるとするならば、身体に付属する霊体になると考えられます。（天野仁により洋論。）

つまりラットは、「生気体」のようなエネルギー（$E=MC^2$ より何らかの質量）を有したものを備えているということです。但し人体の場合は、「命（生気体）」の中により高位なものが内包され、創造する機能を備えているということです。これは「起源意識」の「分御霊」であり、個々（自我）としてその役目が終わるまで「成長」

し続けます。

神智学協会のアニー・ベサント（1847 年～1933 年）は、ヒトにおいては霊体が多重構造になっており、その精妙な部分が不滅であり、個々に無限に成長すると明言しています。しかし厳密には、個々でありながら、個々ではなかったことに気付く日まで成長し、全体で一体である事を認識（知識ではなく覚醒）すると、人類史上初めての未経験な大きな変化が現れます。

しかしこれらの証拠は、時に「我田引水」と言われ一喝されてしまいます。そこで決定的な証拠を示してみましょう。

総ての鍵は「創造した者にしか解らないことが解る」ことにあります。

それでは例を挙げて検証してみましょう。

美味しいカレーライスをレストランで食べた後、家に戻り自分で作って食べてみたくなったらどうするでしょうか？

きっと美味しいカレーの作り方を、知りたくなると思います。その時、誰だったら美味しいカレーの作り方を、知っていると思いますか？

そうです。美味しいカレーを作った人です。（もしもこれに間違い

が有るならば、料理番組の必要性はなくなります。）

作った人だから美味しいカレーの材料や作り方を知っている。これは、あたりまえのことです。（秘伝のタレや秘伝のスープも同様。）

では、宇宙はどうでしょうか？宇宙は「起源意識」の意図によってできています。「起源意識」にとっては、「名」と「物」の元は「起源意識」です。

起源意識にとって、何かを作るための材料や道具を作るより、作りたい物を直接作った方が手っ取り早かったのです。ただし作った物が何であるのかを知り、理解し、意図から生まれた初めの創造物を、物の世界に適合させるためにアレンジするには、物から物を創造するための「名」（学問・研究・教育の材料）が必要だったのです。

そこで「あそこ」に行って、「あれ」を買ってきて下さいと言われたら、あなたならどうしますか？きっと「あそこって、どこ」と、「あれって、何」と尋ねると思います。

「あそこ」と「あれ」に相当する「物質的場所（位置）と場所の名前（地名・店名）」と「物質的物（例えば甘い物）と物の名前（キャラメル）」が、「物」と「名」なのです。（「名」と「物」、の世界α。）

ですから「物」（物質）と「名」（名前）のどちらか一つが欠けて

も、宇宙は成立しないのです。（宇宙の材料の論拠）

そしてこの二つの材料（「名」と「物」）を産み出し、これを使いきるだけの機能を有する「名」と「物」以前の存在である「起源意識」（「名」と「物」を超越する存在・表現不能であり、起源意識とも書くことが出来ない存在）があるからこそ宇宙が存在できるのです。これが解る事に「わたしたちが起源意識である」ヒントが秘められていたのです。（気付きの原点があった。）

「井戸を造った者のみ、井戸の中に居ることを知る」

よって「起源意識」は意図することで次々と物質化させ、「物」を存在させることが可能だったのです。（量子力学の答えと一致する）

但し前述のように「起源意識」は、全体一体の時にのみ力が発揮できますが、人々の霊魂は、本質的には「起源意識」の「分御霊」であるとはいえ、分散状態（個々ばらばら）なのでこの力が発揮で

きません。

以上のことより、**宇宙を形成する材料と作り方を示す事が出来ることが、わたしたちが起源意識（宇宙を造った者）の「分御霊（分身）」である決定的な証拠です。**

わたしたちが分散する前の「起源意識の状態（宇宙が出来る前のわたしたちの状態であり、人体も名前もありません）」で、宇宙や一切を創造し、その後地球上の人体の中に入り、自分になってしまったため、「宇宙の起源」も「わたしたちが誰なのか」も解らなくなってしまったということです。

あえて宇宙起源の場所を示すならば、わたしたちの頭の中に分かれ分かれに入っている「起源意識」です。（その意味では、頭の中にあることになります。物質的宇宙は一つしかないにも係わらず、頭の中の宇宙は地球人口数分だけあります。そのため個々が形成してきた宇宙を中心に物事を考えるため、判断は個々ばらばらとなる。）

また「起源意識」の存在は、宇宙を初め、地球上のいたるところに関与する宇宙定数や自然の数的法則性、わたしたちの人体を初め動物植物に至るまで数の法則（DNA・心拍数・血圧・白血球数・花びらの数など）が関与しており、偶然ではなく「誰か」が意図的に

造ったと考えることに無理がありません。この「誰か」が「起源意識」です。（しかもこの法則性が解る事も、創った者である証拠です。）

わたしたちは、全体一体の「起源意識」であり、「起源意識」を車に例えると自分の存在は、一つの部品（タイヤ・ランプ・ハンドルなど）に相当します。部品一つでは機能しませんが、一つの部品が無いと車としての機能は営めません。一つの部品がとても大切です。これが「自分とは何」の確かな答えです。

問題の「自分が何」を解いて判明したことは、解けた答えに基づく社会構造になっていなかったことです。（諸問題の原因が判明）

これからどうするのか

当然ですが、答えに基づいた社会（全体一体）に作り変えないと「生きる目的」は、達成できないことはいうまでもないことです。

人間とは、日本の辞書によると「世の中・世間」とあります。

このことより、わたしたちが人間ではなくて、わたしたちは起源意識であり、人間を造る側であることが窺（うかが）えます。

最初わたしたちは人体も名前もありませんでした。区別も出来なくて、皆で一体の世界（初めからある一体の人間）に居たのでした。

この社会構造をベースに、現在の物質の世界へ人間（社会構造）

を創造しようとしたのです。（この表現は、自分が人間だと思い込んでいるので、理解し難いためよく考えてください。）

「自分は何」の答えより、わたしたちは全体一体でないと、100%の機能が発揮できないということが判り、一人では生きていけないという事です。

つまり幸せを求めるならば、全員が幸せにならない限り、誠の幸せにはなれないということであり、平和もこれと同じです。

総ての人が幸福になれない原因

全体が一体と成り「生きる目的」の達成を妨げていた原因は、「我己」の過剰形成にありました。（人間形成の阻害要因＝「我己」。）

「我己」は前述の通り、競い合う・戦う・争う以外に、「起源意識」と繋がりが無いため非道で、貪欲で、傲慢で、常識的判断を欠く（時には戦争の必要性を訴える）存在です。

そこで一度、「我己」を包括する社会構造を作らないと、根本的な解決が出来ないどころかいずれ必ず滅亡します。

例えるならばコンピューターウイルスに感染した場合、ウイルスを除去しないと、コンピューターが正常に作動しないのと同じです。この場合のコンピューターウイルスに相当するのが「我己」です。

本当に良いことが判っていても、それが出来ない社会構造になっていて、正しい事をしようとしても、正しく機能しないのです。（善意や正義を貫くことが無駄な努力に終わってしまう。）

繰り返しますが「我己」がある限り、「判っちゃいるけど、止められない」のです。

では、**一体どうやって我己を包括するのか**という新たなる問いが生まれ、それを解決する為の具体的な手法の考案が必要になります。

具体的な手法

ウイルス感染をしたコンピューターの場合、ウイルス対策ソフトがあれば簡単にソフトレベルでのウイルス除去が可能です。しかし現在のわたしたちの社会環構造は、システムのベースとなる OS までもが感染し、ソフトレベルで復帰をする事は不可能な状態です。

つまり、ことは既に自分にはなく、「我己社会」にまで発展した「社会構造」にあるということです。

例えば交通社会において、交通ルールを正しく守れる人がどれだけいるかを見ればご理解いただけるはずです。交通ルールは法律なので、これを守らなくてはならないことは誰もが知っています。

しかしそれが判っていても、「皆が守らないから、自分も守らない」

という社会構造になっています。これを「我己社会構造」といいます。

「我己社会構造」は、個人レベルで形成された「我己」が、社会的レベルにまで肥大化し発達成長したものです。（姿なき化け物に変身する為、世の中は乱れて当然。）

現在、政府や集団や組織や教団など全てが「我己社会構造」に移行した為、判断や行動など全てが「我己社会構造」を基準にして動いています。（総ての人の幸せではなく、縁ある衆生のみであったり、ひどい場合には、政治的権力を欲しいままにしたり、お金集めが目的になります。）

従ってよく考えてみると非道であっても、「我己社会構造」の世界では上手くすれば正道となってしまいます。（言った者勝ちの世界。）

先ほどの交通ルールを例にとっても、赤信みんなで渡れば正しい事になり、「我己社会構造」が判断を下していることになります。

こうなると自己責任の所在が不明となり、「自己」の責任逃れが起き対応は非常に難しくなります。なぜならば交通違反で捕まえるなら、皆を捕まえなくてはならなくなるからです。

大病院・大企業なども「我己社会化」し、部下の過失による事故

の場合でも、謝るのは組織代表の社長や院長や幹部（組織としての謝罪）などで、自己責任は曖昧（あいまい）にされます。

「我己」はこのような組織へと移行し、「我己社会構造」（姿なき化け物）へと変貌し、自己責任の消失（自己の居場所が無い）を起こし、社会全体のシステムを狂わせます。

今後、自己逃避型の「我己社会化」（「我己社会構造」判断によって、会社が悪い、社会が悪い、国が悪いと考えるようになる）に伴う事故や事件が益々多発する事でしょう。

ここまでいくと、個人の精神鑑定や個人的な精神修養や小規模団体（数百万人規模)の活動では絶対に対処できません。精神修養や活動をするならば地球レベルで全員が行い、国際社会を作り変えなくてはならず、到底できる事ではありません。（国連でも厳しい。）

またイベントやコンサート、シンポジウムや会議または、講演会や本の出版で、世の中を変えようと努力している志気の高い人達がたくさんいます。しかしいずれもターゲットが集団のようであって、実は個人である事と、持続性が無く立ち消えしてしまう事に問題があります。

これらは一見、社会構造を変えられるような錯覚を持ちますが、

なにせ相手は「我己社会構造」であり、頂点は「我己社会構造」の構築基盤を成している国や政府や法律です。

「我己社会構造」を変えるには頂点を変えなければ何も変わらないのです。（我己包括機能を持った国政が出来るかが焦点。）

ですから例え組織の中の一人が目覚め、自分を変え社会を変えようとしても、「我己社会構造」が変えさせないのです。

それが証拠に「我己社会構造」をよく分析してみると、本業が絶対にまっとう出来ない仕組みになっています。つまりマッチポンプの構造で完成できないようになっています。

医療従事者の本業は、医療行為を極力必要としない社会環境を作ることです。警察官は警察を極力必要としない社会構造の確立です。

また空気清浄機や浄水器メーカーは、これらの器械を必要としない自然環境確立です。

よってこれらの行為（医療行為、取り締まり、浄水器と空気清浄機の製造）をやればやるほど、作れば作るほど身体や生活環境や自然環境にストレスを与えます。また、たとえそれが判っても、本業をまっとうすれば失業してしまい、誰もそのような事を望むはずがありません。

すなわち地球が壊れようが、人体が薬の副作用で壊れようが、世の中がどんどん悪くなろうが、今やっている事を続けるしかない社会構造になっているわけで、これが「我己社会構造」になっている決定的な証拠です。（悪魔の罠。）

このような「我己社会構造」になっている為、わたしたちはゴールするどころか、ゴールとは 180°違うところへ向かって突き進んでいたのです。これがいずれ滅亡してしまう論拠になります。

純粋な子供は、これを「自己」で察知できるため登校を拒否し、引きこもりになります。（「我己」の形成が未熟（所有物が少なく、物に対する執着心が少ない）な為、「自己判断」が優先される。）

このような構造の中での善意活動は、せっかく志気が高まっても、「我己社会構造」の中に居るので進まず、すぐに立ち消えしてしまいます。（潰される。）

またこれに対抗する組織を立ち上げても精々、「組織我己」が産まれ、思想集団化したり、宗教教団化したりして、組織とイズムが生まれるくらいです。（微力。）

中には教団や組織から政治家として精鋭を送るのですが、「我己社会構造」には力が到底及ばず、変革することどころか知らないうち

に「我己社会構造」の中心人物になったりもします。(巻き込まれる。)

また世界規模の「我己社会構造」になっているため、日本だけでは到底解決できるはずもありません。(世界的レベルでの改革。)

よほど世界レベルの目的意識の統合と、向かうべきゴールの把握が出来ていないと「我己社会構造」に負けてしまいます。(組織は作っても無駄。)

ですから「我己」はもっと根源的なところから対処し、始末をつけなくてはならないのです。(並大抵の事では処理不可能。)

我己により人類は絶滅する

繰り返し書きますが、わたしたちは我己により間違いなく絶滅させられます。(みんな死んでしまうということ。)

現在の社会構造は、完成できない構造になっていないどころか、完成とは 180° 方向の違う滅亡の方向へ向かう「我己社会構造」である事は既に述べました。

1547年プロヴァンス地方のローヌ川下流に肺ペストが大流行した時、村から村へと感染は拡大し、1週間ぐらいで一つの村が全滅する事態となりました。医師たちは原因が判らずお手上げ状態でした。

そこへ、どこから来たとも判らない若い医師が現れ、当時の常識

では絶対考えられない、遺体（当時は遺体を土の中に埋葬し、安らかに眠っていると考えられていた）を掘り出し焼き、村の所々にチーズの山を作りネズミを誘き出し焼き殺し、感染を防ぐため閉ざしていた扉（当時の常識）を開け、日光を部屋の中に入れ（日光消毒）、村人は町中の下水と家中の寝具にいたるまで強い酒で消毒し、村人は裸になり強い酒で（アルコール消毒の代わり）身体を消毒し、病人の隔離をして接触を避けるように指示をしました。

こうして多くの村人は助かり、死ぬ人もピタリと止まり、その後重症感染者が僅かに死ぬに留まりました。

そして、どこから来たかも判らなかった若い医師の言うことが、あまりにも唐突で常識はずれであったため、従来のしきたりと、常識を頑なに貫き通した村は、跡形も残らない惨憺（さんたん）たる状態になり消えていきました。

丁度この例と同様で、「我己」の感染を今、完全に始末を付けないと地球上の人類は総て滅亡します。（繕（つくろ）いは、いつか綻（ほころ）ぶ。）

おそらくこのまま地球環境を破壊し、人体が生息できなくなるか、核兵器を使った戦争を引き起こさせられるか、どちらにしても取り返しがつかなくなることは間違いありません。財産や社会的地位や

名誉を失うどころか、みんな死んでしまうのです。

当時は、ペストがネズミを媒体として感染する、ペスト菌が原因であることが判明していませんでした。丁度この書が世の中に出るまで、人類の歴史を振り返った時、繰り返される悲惨な事態の究極的原因がハッキリしなかったことと同様です。

すなわち、この矛盾だらけで次々と限りなく生まれる問題の原因が、「我己」であることが判明していなかったのです。

今まさにわたしたちは、これらの矛盾や問題を引き起こす原因を「我己」と特定し、ペスト菌よりもっと恐ろしい菌に感染していることを発見したのです。（判らないうちに自滅する病気。）

この菌に感染すると「判っちゃいるけど、止められない」精神状態になり、国が国を、人が人を、隣人が隣人を、友人が友人を、親が子を、妻が夫を平気で殺すのです。（物事を善し悪しで判断しなくなる、つまり常識での判断ではなく、所有物と所有権を基準として判断し、戦争と殺人が起きます。後は真実の隠蔽か情報操作によって、正当性を訴えれば事は済みます。これが我己の凄さでもあり、恐ろしいところです。）

争う事によって肉体的または、精神的に誰も傷つかないはずはあ

りません。だから一言いえる事は、戦争はしないことです。こんな事は小学生でも知っています。しかしそれが現実としてどうなっているかは、ここで述べるまでも無いことです。

それは「我己」により徐々に感覚が麻痺し、本当はそうではないにもかかわらず、人の痛みを感じるどころか、傲慢になり、自制心がなくなり完全にコントロールが取れなくなるのです。また学問ができ、頭がいいといわれる人ほど症状が顕著で、しかも自覚症状が何もない（自分が自分でなくなっていることが自覚できない）というところがペストより怖いのです。(受験戦争の弊害。)

このままでは、世界中の法治国家が無法状態になります。

ところがそのような「我己」であっても、「我己」の必要性があることは前述させていただきましたが、「我己」にはもう一つの役目があるのです。

形成された「我己」を究極的に発達させると、その後ろにある「自己」(「自己」のバックグランドは「我己」ですが、「我己社会構造」である現在は、立場が逆転し「我己」が前面に出て主導権を握っている）も究極的に発達するのです。

そして最終的には、「起源意識」と繋がっているのは、「自己」な

ので、「起源意識」の理想とする方向へ、「我己」を打ち破り向かっていくのです。そのためには「我己」が満足をしないとこのエネルギーは湧いてきません。

現在の日本人の「我己」満足度は、既にこの状態にあると考えられ、不況と言われる近年ですが、これは「物」が売れないのではなく、「我己」がある程度満足をしたために、頭の中の「我己」が満たされ「物」を欲しがらなくなったと考えられるのです。

ただし、当然そのレベルに達していない者や、これから欲しがる年齢に達する者もいて、今後一人ひとりの究極の満足を求めていると、「我己」は限りなく肥大化し地球が崩壊してしまう為、その前に「自己」が常識ある判断を下す必要があります。（大多数の「我己」が満足できる文明を基準とした社会構造作りが重要。）

従って具体的な我己ウイルスの退治をしようとするエネルギーが今まさに湧いてくる時期なのです。だからこそ世界に先駆け日本が、先頭を切って始めさせられるのです。

「我己」が存在した「我己社会構造」のままでは、決して理想社会（当たり前を当たり前とできる国）は望めません。しかもゴールとなる理想社会は、誰もが常識として既に知っています。

常識を社会構造とする国家には、唯一「我己」は関与できません。だからこそ最終ゴールとなる「常識の社会構造」（当たり前の社会構造・わかっちゃいることができる社会構造）を先に示し、国家自体を作り替えなくてはなりません。

最終ゴールとは、政策終了後の政治・経済・法律・衣食住などの生活水準はどうなっているのかを先に決定し示すことです。（これを示せないうちは、路頭に迷っている状態。）

すなわち最終ゴールを先に作るということは、建国まで遡る必要があり、OS を入れ替える事になります。頂点である憲法・法律・政治・経済を再編成するのではなく、これらを国造りの時点に遡り根本から作り、ごっそり入れ替えるのです。

しかもこれは、最終的には世界の国、全てが行わなくてはならないのです。なぜならば世界が一つのコンピューターだからです。

どこかに感染源があれば、いずれシステムロックを起こします。

このように書くと大変な事のように思われるかもしれませんが、要は「我己」を包括すればよく、「我己」が形成される原因を排除するだけでよいのです。

これは非常に簡単なことで、「我己」形成の根源となる個人が、物

や権利や権力を所有しないで、総てを共有する社会構造を作ればよいだけなのです。そしてその社会構造（起源意識社会構造）をベースとした政治・経済・法律のシステムを作ればよいのです。

こうすれば「我己」は形成されることなく、「我己社会構造」は生まれません。原因は元から立たなくてはならないのです。

しかしこれを地球規模で実行するには、国連の決議でさえ無視（国連決議の終焉）される時代背景があり、話し合いでは到底不可能でしょう。（しかし「我己」の排除に関する国際会議の開催は急務であり、全地球生物の命運が掛かっている。）

それには今日まで培ってきた叡智を結集した、常識を常識とできる新しい国を建国するしかないのです。（頂点となる憲法や法律や政治システム、経済システムを入れ替える為の国造りからやり直さなくてはならないため、当然と考えられます。）しかも合法的で、争いも話し合いも必要とせず、瞬時に作らなくてはなりません。

組織を作るのではなく、盗人（ぬすっと）のように誰も知らないうちに国を造り、一夜にして地球総てを包括することが可能な合法的理論を作ればよいのです。「我己」により建国を禁止された場合には、地球及び総ての生命の完全救済の方法がなくなるため、取りあえず造ること

が先行する必要があります。しかし「我己」は必ず阻止してきます。

残された最後の手法「人類最終選択肢」

ここまで書けば御理解いただけると思いますが、「我己」の包括という答えを出すためには、全学問の中枢命題「人間とは何（自分とは何のこと）」を解かなくてはなりませんでした。だからこそ「人間とは何」の答えが無いことに、一切の問題の根源があることを挙げさせていただいたのです。（人間に限らず自我も生命も同様）

「我己」により「判っちゃいるけど、止められない」という精神構造になっているからこそ、「判っちゃいる」ことを全て挙げ、それに基づく国を造るのです。しかも現在ある国は、全て「我己」に毒された「我己社会構造」になっている為、新しい「起源意識」を中心とした社会構造を基盤とする新国を立国する必要があります。

「我己」を排除するための、「起源意識」を中心とする国家構造を作ることは、とても大変かと思われるかもしれませんが、そのようなことはまったくありません。

例えば、まとめると以下の三つになります。

① 物の共有：物は総て共有し、誰もがいつでも、同じだけ利用できる。発想基準はオールレンタル。（マイボール・マイカー・

マイホームなどのマイを取る。）

② 権利の共有：総てにおいて与えられる権利は同じであり、受ける恩恵も同じです。階級も存在しません。

③ 全体一体：オメガ国以外に国や組織を作らず、税金も無く、衣食住も報酬も一定で人の天性を尊厳し、一人ひとりが社会に対して貢献し、天性を発揮することで「生きる目的」を満喫し、「自己」としてできることを表現できる国です。またこれを受ける側も同様です。

以上の三つの志（こころざし）さえあれば、法律の必要はありません。（六法全書の終焉。）政治・経済もこれを基本概念として、維持管理すれば良いだけのことです。（これが宇宙絶対法則。）

こんなにシンプルなことですが、前述のペスト菌感染例と同様、従来の常識や、しきたりを維持したままでは退治できないことは言うに及びません。（国同士の話し合いでは到底無理。）

いうならば「我己」を完全に包括しきらなくてはならないのです。「我己」に隙を一切与えてはなりません。

「トップリーダー」の方々に本書の内容を理解していただき、トップリーダーとして地球全生命を滅亡から救うことの使命に気付き、

起源意識に目覚めていただくことが出来たならば、大きく世の中は動くでしょう。（提言が実る。）

しかし、米国やこれに追従する立場という「組織我己」の為に、これを実行することが出来ないかもしれません。しかし、それではトップリーダーを含む総ての生命が失われてしまう為、最後の手段をここに示させて頂きます。（あとは使命を担ったものに任せるより、手立ては無いのです。）

その方法は、権力争いや戦争や論争も無く、どこの国の領土も侵すことなく、地球丸ごとどころか宇宙丸ごとを領土（「名」と「物」の範疇）とする宇宙国を造ることです。そうすれば地球は、宇宙国の中の一部にしか過ぎない存在になります。

理論的に地球は、インディアン居留地と同じ扱いになり、憲法や法律や政治や経済（物価・通貨）など総てが宇宙国に従っていただくことになります。（地球上の如何なる国のルールでも、宇宙では一切適応されません。それ故に宇宙国には、当たり前のことと完璧が必要とされます。）

現在、地球上には多くの国が存在しています。これらの国の領土は、地球が出来た頃には誰ものでもありませんでした。

誰の物でもなかった所に、誰の許可も得ずに国は出来ています。

その時その場所に居た人の確認も、承諾も必要ありませんでした。また国を造って申請する所さえなかったのです。

国とは、初めから自分たちの物など何一つ無いにもかかわらず、権力者が武力を使い有無を言わさず無理やり作り、総ての人に認めさせたに過ぎないのです。（言った者勝ちの法則です。本来は皆が裸の王様のはずです。）

国づくりの原理からいえば宇宙国だって同じ事です。

だから争う事も、話し合う事も必要なく、一夜にして地球丸ごと包括する宇宙国を作ることが可能です。

「我己」と戦うのではなく、「我己」が合法的だと思っている仕組みを使う事で、「自我」が自己矛盾を起こしてしまう原理を利用すれば良いだけです。

この原理を使えば、例え**遊びであろうとも（原則的に遊びと本気には線引きができず、境界がありません）**、建国の告知を何らかの方法で公示し、後は徐所に広く大勢の人に、認識していただけばよい事になります。（本当になる。）

しかも政治・経済・法律などのシステムが具体的であり、政府機

関も同等の仕組みであるならば、それが認められないはずがなく、宇宙国の仕組みに当然切り替わって然りです。（言った者勝ちの法則、ただし主役は皆さん。）

しかも宇宙国の方が、宇宙の中にある極小の地球よりも、遥かに広義であり、市は県に、県は国の法律に従うように、地球は宇宙の法則（宇宙定数にみるように、宇宙には絶対法則があり、現在人類だけがこれに則していません）に従うのが道理です。（理にかなっています。）

これを日本国の使命として認識し実行したならば、「神国日本」の謂れ通り役目を果たすことが出来るのですが・・・？（宇宙国の祭祀の中心的お役目であり、世界を従わせる機能を有する。）

宇宙国は宇宙内に存在するもの一切を、誰にも支配できないように、また自己所有（宇宙国以外の国を建国したり、各種組織や団体、教団など）を、未来永劫に渡って不可能にするために建国するものです。（宇宙国には「大王」がいますが、「大王」とは「起源意識」です。この「大王」が顕現できる世界を造ることが宇宙国の使命であり、今回これが最後の仕事です。）

もしもこのような国づくりを、地球上のどこかの国の中でやると

なると、必ず戦争か論争が起こり、建国できるか出来ないかの判定は、力のみのとなります。（流血は避けられない。）

また遊びだとするならば、できたとしてもどこかの国の政治や法律や経済などの制約（我己中心の社会制度）を受ける事となり、目的を達成できません。

「我己社会構造」へと肥大化し化け物と成った「我己」には、「起源意識社会構造」をもって始末を付けるより、他に手は無いのです。

本来ならば宇宙国の運営は、国連の仕事であり、日本は重要なアドバイザー的な役目を担って然りです。そして世界の国々が集まりこれを実行しない限り、現在の「我己社会構造」によって、わたしたちは総ての生命体を巻き込んで自滅してしまうのですが・・・？

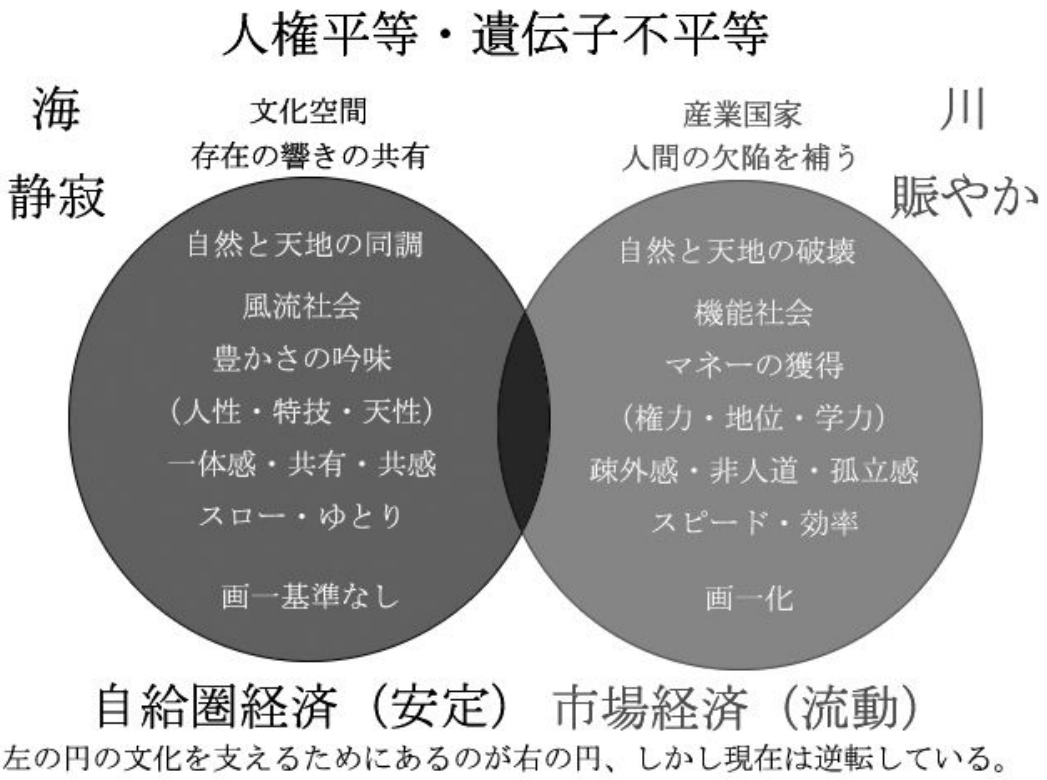
（また日本自体も「神国日本」として機能できないと、「鬼（我）国日本」へと変貌し、天変地異によって国土没収をされることでしょう。今は執行猶予期間でありタイムストレッチがされている。）

周知のように国造りは、知識階級（エリート）集団による友愛と調和を基礎に、世界人類が一つとなり幸福に暮らすことを目的にして生まれました。（いわば幸せにするためのシステム作りが建国。）

しかし「我己」が急速的に発達した地域（先進国）の特定の人（エ

リート）が、楽をして、幸せに暮らすためのシステムに変貌してしまったのです。

そして愛は憎しみに姿を変え、幸せはお金に変わり、知識階級（エリート）は支配者となり、総ての人の幸せがなくなり、「生きる目的」が失われてしまったのです。（権力者の我己感染が原因。）



これはエリートに責任があるのではなく、初めからそうなるように仕組まれていただけです。ですから憎んだり争うなど、敵対心を持たないことです。（「起源意識」は、本書を出すことも予定の中のことであり、これにより世の中は変わらざるを得ない。）

犯罪者なども同様で、問題提起をさせられる役目でやらされてい

るだけです。逆に問題提起をされているにもかかわらず、何も考えず変わろうとしない方に責務があります。（憎まれ役の役目を理解することが重要で、問題提起をする必要がなくなれば、役目を担わされる人は出ません。）

「我己感染」すると、わたしたちの中の「我己」は増殖の一途をたどり、そのまま放置していると**わたしたちは、必ず我己によって滅亡させられてしまいます。**（我という文字は手に矛（ほこ）を持っている象形であり、我は戦うために与えられた矛の機能だからです。競い合いを好む理由です。日本の文字や言葉の中には、自我や自己や起源意識に関するあらゆる情報が組み込まれており、これを言霊などと呼んでいます。）

従って、今後はどのようにして「我己」を包括するかが鍵となり、その仕組みを備えた国を造ることが必要です。

「我己排除機能を持つ国とは」

「我己」包括システムを持った国とは、人類の最終選択肢となる先の「宇宙国を建国」する（総ての人を国家公務員とする事で、個人所有ではなく、総てを共有することで条件を整えます。但し個々の人体については個人の人権を尊厳する）事です。

しかし当初のペスト治療と同様に、あまりにも現実離れしているために、初めは誰にも理解がされないかもしれません。（冗談や馬鹿げた遊びだと高笑いされるだけです。）しかし、これは、予め決めてある「起源意識」自身の計画であり意図です。（よく考えてみればみるほど、真相がハッキリしてきます。）

宇宙国の建国は、現在様々な国が存在している、存在原理（概念）と全く同じ原理（概念）を使います。従って宇宙国を否定すれば、今存在している国々の存在も否定せざるを得ない、プログラムを作ればよいのです。（「我己」が抵抗できない仕組み。）

勿論、宇宙国を受け入れても同様で、受け入れれば今存在している国々が消えるように作ればよいのです。

結果、宇宙国より大きな国を作ることが出来ない為、これによって宇宙より、地球規模で支配している「我己」による「我己社会構造」を完全包括することが出来るのです。

だからこそ有史以来、初めて「我己」に始末を付けることが可能となり、「起源意識社会構造」が誕生し一切の問題が解決できます。

過去には、武力により建国が行われてきましたが、今は 21 世紀情報化社会の時代です。武力を情報力に替えて、皆が認識すればそれ

でよいのです。（建国宣言を流すだけで「我己社会構造」は包括されたのも同然です。）

宇宙は皆のものです。（実際にある宇宙条約に基づく）だから本当は、地球においても適応されて然りです。よって、地球上にあるもの全てが宇宙の一部であり皆のものです。（利権が存在するはずが無い）

だからこそ宇宙国（α束縛⇒Ω開放）を作って、総てを皆の物として開放しておかないと、「我己」により宇宙も必ず誰かが、地球連合か、連盟か連邦、またはあたかも合法的な会社（国）を作って所有されてしまいます。（公の名の下の個人所有。）

宇宙国を建国することは、決して支配や、独り占めのために行う事ではなく、「我己」による「我己社会構造」を脱却し、皆が自立することで、本来の自己判断（「起源意識」の一部として機能する事）が働くようにして、「起源意識構造」に回帰することが目的です。（人への回帰・本当の自由への道。）

トップリーダーである方ならば、学問を修めさまざまな経験を積み、さまざまな物を所有した経験があることでしょう。

だからこそ自分の成したい事を総て成しても、そこには本当の幸

せが無い事を知っているはずです。

本当の幸せは、総ての人が幸せになった時に、共感できる事を思い出してください。

「起源意識」にしてみれば機が熟したことになり、この「物質世界を最終的にどうすればよいか」の答えを、ようやく出せたことになります。周知のように、地球は人類が生息できなくなるまで時間的猶予がありません。（地球再生能力臨界点の消失までの時間。）

現在の社会に「我己」が存在したままではどのような手を打っても、理想とは違った方向へ向かいます。今後、究極的な民営化が進めば我己形成は益々進み貧富の差が拡大し、将来におきることは、略奪と戦争と破壊による滅亡です。

これに対し総ての人が国家公務員となり、衣食住を共有し生命の保障の基で生活すれば「我己」は消滅します。

選択は、総ての民営化もしくは、総ての人の公務員化のいずれかしかなく、中途半端な選択はかえって世の中に混乱を招きます。

ひとりでに起きることは何も無く、自分の考えと行動の方向性をきちんと決め、目標（地球を包括する新しい「王国」、「起源意識の国」となる「宇宙国」を建国し「我己」を包括する。）を定めて進む

ことが大切です。

「起源意識」の完成には、総ての人の統合（多少のずれは誤差の内であり、皆が幸せになる志）された一定の方向性を持つ望みが必要であり、たった一人の選択が全体の大きな動きに繋がっています。

その望みとは「生きる目的」の達成であることは言うに及びません。

しかしこの過程で、総ての人が自分の頭を自分で審判することになります。つまり自分が何にウエイトを置いて、生きてきたのかを自問自答する事（最後の審判）になります。

それによって、「我己」（財産・地位・名誉・所有物など）にウエイトを置き、尚且つこれを守ろうとすれば、「我己」（悪魔の軍団）に、一方「自己」（人とのかかわりや・愛・友情など）にウエイトを置き、これによって総ての人の幸せを願うのであれば「起源意識」（天使の軍団）に分かれます。

両者に分かれれば言うまでもなく、ハルマゲドンになります。間違ってもそうならないように、包括することが最大の鍵です。

ですから「我己社会構造」に対して、いきなり謂れ無き構造改革に入ると「自我」は驚き、守りに入り変わろうとしなくなります。（暴

動や革命、戦争が起きる。）

従って、「我己社会構造」（本業がまっとうできない社会構造であり、このままでは絶滅する仕組みになっている旨）になっている事を説明し、納得した上で行わなくてはならないのです。

特に重要な事は、皆が元は同じ「起源意識」である事を伝えることです。これが納得できれば、宇宙国という発想の必要性が理解できます。

宇宙国の役目（政策）

宇宙国の役目は、衣食住の基盤整備です。すなわち文明国で文明の必要と不必要を棲み分け、不完全を完全とした、いうならば命を中心に据えた文明のスタンダードを作る事です。

また文明のスタンダードを考えるに当たり、「我己」の包括が出来るレベルでなくては意味がありません。（ある一定の基準の必要性）これによって、文明のスタンダードが決まり、「我己」に満足をさせる必要最大限の生産をした後には、物づくり産業を卒業します。（共産ではなく共生へと移行し、これにより地球環境破壊を完全克服する。共生主義。）

文明のスタンダードの基盤が命である事に触れましたが、人体

で言うならば血液に当たるのが、水になりこれにトラブルを起こせば、周知のことが起こります。

従って水源地より川を経て、海までの水の流れを中心に、地域に適合する完全にクリーンで、エコロジーなエネルギー（ソーラー、風力、水素、永久エネルギーなど)、食の生産（究極の農法など)、住宅のあり方（エコハウス)、生活用水（究極の水道システム）と排水のあり方、交通機関の整備などをセクションごとに分け、世界中の企業にどのセクションに対して、どのような企業が、どのような技術を持っているかを提言（リストアップ）いただき、山から海までを一つの単位（ワンユニット）として考え、トータルコーディネートをすることです。（本来は万博の仕事）

力の結集が必要であり、現在行っている各領域の反対運動をしている猶予も既に無い状況です。（知恵を出し合うことが解決の道。）

トータルクーディネートされたシステムが完成したならば、どこの国であっても現地で資材を調達し、現地の住民と共にトータルで造る事で、恒久的にこのシステムを維持管理し、安全で地球環境にストレスを与えることも無く、安定した究極の衣食住を確

保することが出来ます。

　またこのシステムを含む総てを共有することで、住民を自立させることが出来ます。そして教育は、このシステムの維持管理に必要な知識を、授ける事のために必要なだけです。（これが達成されれば、本当の平和がやってくる。）

　これにより開発途上国の飢餓を完全に解決することができ、各国間の信頼関係が生まれてきます。（武力の行使やお金や物資を恵むことでは、絶対に達成できません。恵むことは罪。）

　これが達成できた頃、人々は一体である世界構造によって、一体であった事に気付き、誰かが言わなくても一体化します。

　これがスピリッツ（霊（たましい））の完成です。

　本来これは、国連主導で行うことです。当然日本の自衛隊もこれを行えば、誠の国際貢献と言えるでしょう。（防衛費も然り。）

　しかし、これはかなり厳しい状況にあり、タイムリミットがあるため、不可能な時は宇宙国主導で行う事になります。（有事のため準備し創っておくのです。）

　宇宙国政府官僚と政治家に求められる資質は、たった一つであり「痛み分けを共有し、痛みはまず自分から」ということを心情

としていることです。（垂範指導：危険地帯へも、まずは自分が先に行き判断する意気込みを持つことで、総ての人が納得できる政策ができる。）

特にリーダー的存在に求められる資質は、たった一つで「起源意識」（元であり、狸や狐や低レベルではない）の意図を、預言や、予言ではなく、リアルタイムに汲むことが出来ることです。（そうでないと道を外す基になる。人知では不可能であり、尋ねれば即答できる人のみ。）

これらの人であるならば、現職の国連役員、政治家、官僚、企業家、凡人など誰でも、即座に起用できます。そして実行・・・

文明のスタンダードが地球規模で達成できれば、人類救済や平和や平等、武器の放棄など訴える必要はまったくなくなります。

皆様方のようなトップリーダーが、本書の内容を理解できないはずは無く、いち早く始めることの決断をなさることが急務です。

それともこれ以外に、もっと良い方法が有るならば、そのゴールの状態を世の中に示し、いち早く実行することです。

「生きる目的」の達成（政策の終焉と次へ）

「起源意識」によって造られた世界は、物質文明を完成させる

ことではなく、「起源意識」の完成をすることが最大の目的です。

すなわち総ての人が「自分が起源意識の一部である事」に気付き、目覚める事にあります。（他力により気付く事）

総ての人が目覚める事で、「自我」により頭の中で個々バラバラに存在してきた地球人口数分の宇宙が、個人個人の覚醒により融合された大きな一つの宇宙に統合（全体一体化）されます。

これにより意識は統合され、再びかつての力は蘇り、物質のあり方を根本から変えることが可能になります。この時個々の自己を通してデーターを蓄積してきた「起源意識」は、データーに基づき DNA の組み換えでは達成できない、不老不死に対する永遠の問いにも答えをだすことでしょう。

これにより人間（世の中）が完成することで、物質世界での理想であった「生きる目的」は達成され、方便として建国した宇宙国はその役目を終えます。

最終的に大宇宙の中で自我は、自己となり、一切の束縛より解放され、大きく変化し、地上で物質を伴って存在している霊（たましい）と、物質を伴っていない霊（たましい）とが融合し、人類は人となり、かつて経験し得なかった人知を超越した、次のステージへとソウルシフト

します。

　本文書は、ほんの僅かな知識と、大半は叡智（起源意識の知恵）で書かせていただいた為、乱筆乱文になりました旨を何卒ご容赦下さい。